

国語

注 意

- 1 問題は**1**から**5**までで、9ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**五〇**分で、終わりは**午前九時五〇**分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えは**特別の指示**のあるもののほかは、各問の**ア・イ・ウ・エ**のうちから、最も適切なものをそれぞれ**一つずつ**選んで、その記号を書きなさい。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 7 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次各文の——を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 水が沸騰した。
- (2) 経済格差を是正する。
- (3) 今日の議論は活況を呈した。
- (4) これは意匠を凝らした作品だ。
- (5) あまりの規模の大きさに驚嘆した。

2 次各文の——を付けたかたかなの部分に当たる漢字を、楷書で書け。

- (1) ツクエの上を片づけた。
- (2) 先生が会場までインソツした。
- (3) 実験結果をギロクした動画を残す。
- (4) 原材料の多くをユニユウしている。
- (5) あの人にはヨコブエを吹くことが上手だ。

3 次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（\*印の付いている語句には、本文の後に〔注〕がある。）

小学六年生の「ぼく」（リイチ）は、隣のクラスの海空良や、四年生の時に同じクラスだった大智（大ちゃん）と時々遊ぶようになった。自分とは性格の違う二人の言動に、はじめのうち「ぼく」は戸惑うことも多かったが、いつの間にか、二人と一緒に過ごす時間を楽しみ思うようになった。夏休みのある日、「ぼく」は海空良と大智と出かけることになった。





〔問2〕(1) ひよつとして、あれが目的地？ とあるが、この言葉から読み取れる「ぼく」の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 早くツリーハウスに登って、木の上から鳥を見てみたいと胸を躍らせている。

イ 高い木の上にあるツリーハウスに登ることになるのではないかと思ひ、不安を感じている。

ウ 目的地が遠いことを覚悟していたのに、予想していたより早く着いたので拍子抜けしている。

エ 大智から鳥を見に行くと言っていたが、目的地はどこなのかということとをずっと気にしている。

〔問3〕(2) ぼくがいったけど、海空良はぜんぜん気にもとめないで、はしごをのほりはじめるとあるが、この表現から読み取れる「海空良」の様子として適切でないものは、次のうちではどれか。

ア 好奇心がとても強く、興味をもったことに一直線に突き進んでいく様子。

イ 自分の服や手が汚れてしまうということに普段から無頓着である様子。

ウ 細かいことを気にする「レイチ」に対して、少しいらだっている様子。

エ 急なはしごを使って高い木の上に登ることもためらわない活発な様子。

(濱野京子「空と大地に出会う夏」による)

〔注〕 キュロット——半ズボン型スカート。

〔問1〕 本文中の□に当てはまる語として最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア めぐらす

イ かしげる

ウ 突っ込む

エ 長くする

〔問4〕<sup>(3)</sup> 風においなんてない。そう思つてぼくは小さく息を吐く。風のおいと思つたつて、いいのかも知れない。とあるが、この表現について説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

- ア 一文目と三文目は正反対の内容だが、間に「小さく息を吐く」という描写を挟むことで、「ぼく」の考えが不意に切り替わる様子を表現している。
- イ 一文目で示した常識的な考えから「ぼく」の考えがどのように変化していったのかということ、短文を重ねながら丁寧に説明している。
- ウ 三文とも「ぼく」が心の中で考えた言葉であり、「ぼく」が「海空良」の言葉に疑問を抱きつつ口には出せずにいる様子を表現している。
- エ 一文目と三文目で全く逆の内容をあえて述べることで、「海空良」の言葉の意図を量りかねてあれこれ悩んでいる「ぼく」の心情を描写している。

〔問5〕<sup>(4)</sup> ぼくはそういつてから、また「かも」といつたと思つた。とあるが、このときの「ぼく」の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

- ア 「海空良」と対立を避けるために「かも」というあいまいな言葉を使って「まかそう」としている自分自身に気づき、あきれている。
- イ 「かも」という言葉を使うことで「海空良」に対していつもいいかげんな返答をしていることに気づき、自分に嫌悪感を抱いている。
- ウ 可能性を考える「かも」という言葉を無意識に使うようになっていくことに気づき、自分の価値観が変化し始めていることを感じている。
- エ 「海空良」や「大智」の口癖をいつの間にか自分もよく使うようになっていくことに気づき、二人との距離が近くなったように感じている。

〔問6〕<sup>(5)</sup> ぼくは思わずふきだした。とあるが、「ぼく」が「思わずふきだした」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

- ア 寡黙な「大智」が一人で楽しそうに「散歩」をしている姿を想像してほえましく思つたから。
- イ 「散歩」とは全く関係がない「三度」と聞き間違えてしまったことが気づかずかしかつたから。
- ウ 「散歩」と言つてはいるが、本当は大智がセミを捕りたかつたのだということに気づいたから。
- エ 「大智」の返答や「ぼく」の聞き間違いのせいでどこかみ合わない二人の会話が面白かつたから。

〔問7〕 本文の内容を説明したものとして、最も適切なのは、次のうちではどれか。

- ア ツリーハウスに登る前は汚れることを気にしていた「ぼく」だったが、下りてきたときには汚れが気にならなくなっていた。
- イ 真夏の午後の日差しで汗びっしょりになった三人は、遊歩道の入り口で立ちどまって水分補給をしてから遊歩道を歩き始めた。
- ウ 鳥を見に「憩いの森」にやってきた三人だったが、結局鳥の姿を見ることができず、近くのツリーハウスに寄り道することに決めた。
- エ 「大智」は「網を持ってくればよかった」と悔しがつたが、「海空良」が見つけたセミのぬげがらがミンミンゼミであることを教えてくれた。

4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（\*印の付いている語句には、  
本文の後に「注」がある。）

---

\*

(3)

〔工藤尚悟「私たちのサステイナビリティ」(一部改変による)〕

〔注〕 俯瞰ふかん——高いところから広く見渡すこと。

範疇はんちゆう——同一性質のものが全て含まれる部類。 範囲。

〔問1〕 ① ② ③ に入る、正しい語の組み合わせとして

最も適切なものは、次のうちではどれか。

- ア ① しかし ② あるいは ③ たとえば
- イ ① たとえば ② つまり ③ しかし
- ウ ① あるいは ② たとえば ③ つまり
- エ ① つまり ② しかし ③ あるいは

〔問2〕(1) その上で、風土は「私たち」という主語で用いられているという特徴があると考えています。とあるが、「風土は『私たち』という主語で用いられている」ことを説明したものと最も適切なものは、次のうちどれか。

- ア その地域に暮らし、関わりをもつ人々が、地域の風土を形成すること。
- イ その地域に暮らし、愛着をもつ個人が、地域の風土を後世に伝えること。
- ウ その地域の自治活動に関わる人々が、地域全体を活発にすること。
- エ その地域の自然を重視する個人が、地域全体の調和を守ること。

〔問3〕(2) このことを従来の「環境のサステイナビリティ」に対し、「風土のサステイナビリティ」と呼びたいと思います。とは、どういうことか。次のうちから最も適切なものを選び。

- ア 全地球・全種的に共有しているひとつの環境ではなく、その地域の名所や郷土料理などをそれぞれ風土として捉え、守りたいと考えること。
- イ 複数の異なる「私たち」があることを認めた上で、同じ人類をひとまとまりの存在として捉え、共存できる方法を探したいと考えること。
- ウ 自然を客観的な対象として扱うのではなく、自然と人間を分けることができない一体の関係として捉え、行動したいと考えること。
- エ 全地球的な風土という想像は認知することができないので、客観的な対象として環境を捉え、後世につなげたいと考えること。

〔問4〕(3) 少なくとも私自身は「地球の風土」というような表現に手触り感を感ぜられないのですが、このあたりについてそうした認識も可能だとする議論もあります。とあるが、「私自身は『地球の風土』というような表現に手触り感を感ぜられない」と筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選び。

- ア グローバルな環境問題や、SDGsのような全人類の開発目標という枠組みが実状と異なるので正確に理解できないから。
- イ 自然が人間をつくり、自然は人間につくられるという相互に定義し合う関係を築くことに意義が感ぜられないから。

ウ 地域や町など限られた規模にしか関心を抱かないことで、地球全体で抱えている問題を見過ごしてしまうから。

- エ 地球やグローバルという広い範囲で風土の視点を捉えようとしても、具体的に想像することが困難だから。

〔問5〕本文中の④に当てはまる最も適切な語句を本文中から六字で探し、そのまま抜き出して書け。

〔問6〕 この文章における第十一段の役割を説明したものととして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 第十段で挙げた視点を受けて、反対の具体例を示すことで、議論が複雑であることを示している。

イ 第十段で明らかにした視点を受けて、心配される点を指摘することで、議論をさらに深めている。

ウ 第十段で示した視点を基に、矛盾する点を指摘することで、議論の問題点を提起している。

エ 第十段で規定した視点を広げ、応用できる例を示すことで、議論の幅を広げている。

〔問7〕 (4) 都市化していく世界のなかで、風土のサステイナビリティという感覚を根付かせる方法はあるのでしょうか。とあるが、「風土のサステイナビリティ」という感覚を根付かせる方法として適切でないものは、次のうちではどれか。

ア 自分が暮らしている都市の特色を見つけ、より都市化を進めるように価値観を共有すること。

イ 風土のサステイナビリティという視点を政治的にも文化的にも積極的に取り入れていくこと。

ウ 環境と風土のサステイナビリティについて、どちらの視点にも配慮した議論をしていくこと。

エ 環境を扱う政策・技術・経済が、環境のサステイナビリティに偏っている状況を見直すこと。

5

「伝え合うために大切だと考えること」というテーマで、具体的な体験や見聞を含めて、あなたの考えたことを二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や、や「などをそれぞれ字数に数えよ。



